

お客さまが暮らす社会・環境との絆

明治安田生命は、企業市民として、真に豊かな社会の実現に向けて、広く社会貢献活動に取り組んでいます。また、環境問題への取組みも企業の社会的責任と考え、積極的に推進してまいります。

子どもの健全な育成をめざして

次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献してまいります。

地域社会への貢献をめざして

会社、従業員が一体となり、地域に根ざした活動を行ない、地域社会に貢献してまいります。

財団の活動

当社の関連財団は、幅広い社会貢献活動をしています。

環境問題への取組み

安心して豊かに暮らせる社会づくりのために、積極的に環境保全に取り組んでまいります。

子どもの明日 応援プロジェクト

当社は、「子どもの健全育成への貢献」をCSR・社会貢献活動の重点分野と位置付けて、さまざまな活動を全国で実施しています。

具体的な活動内容については、上記メニュー「子どもの健全な育成をめざして」および「地域社会への貢献をめざして」よりご覧いただけます。

▶ 「子どもの明日 応援プロジェクト」の概要 P78

子どもの健全な育成をめざして

子どもの明日 応援プロジェクト

お客さまの「家族への思い」を支えることが生命保険会社ならではの社会貢献と考え、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに取り組んでいます。

「愛と平和のチャリティーコンサート」と 「未来を奏でる教室」



「愛と平和のチャリティーコンサート」と小・中学校での音楽授業「未来を奏でる教室」を開催しています。チャリティー募金は(公社)日本フィランソロピー協会を通じ全国各地のNPO等に寄付しています。

ふれあいコンサート



ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげき氏が全国各地の特別支援学校を訪問し、楽しい手作りコンサートをお届けします。

海の環境工作教室



従業員や地域のお客さまがボランティアで海岸清掃を行ない、収集したゴミ等の漂着物でアート作品を制作する海の環境工作教室を実施しています。

地域安全マップづくり教室



子どもたちが、犯罪が起きやすい「場所」を自ら見極め、危険を回避できるようにするための教室を全国で開催しています。

Hello! Baby 奨学金プログラム



少子化社会対策に資する社会貢献活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度」を支援しています。

「黄色いワッペン」の贈呈



新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈を行なっています。

全国小中学校児童・生徒環境絵画コン クールの協賛



「全国小中学校環境教育研究会」
が主催する絵画コンクールに協
賛しています。

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では、地域・社会貢献活動に継続的に取り組むなか、特に2008年度からは、「子どもの健全育成への貢献」をCSR・社会貢献活動の重点分野と位置づけ、さまざまな活動を全国で実施してまいりました。

さらに、本活動展開が5年目を迎えた2012年度からは、「子どもの健全育成」に向けた活動の総称を「子どもの明日 応援プロジェクト」と定め、改めて、子どもの健やかな成長を総合的に応援する活動として展開しています。



「子どもの明日 応援プロジェクト」を推進する背景

お客さまが私たちと保険契約を結ぶ背景には「ご家族への思い」があり、こうしたお客さまの「家族愛」を理解して大切な子どもたちを守る手助けをすることこそ、生命保険会社にふさわしい社会貢献活動だと考えています。その思いから、私たちは「子どもの明日 応援プロジェクト」を通じ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献していきたいと考えています。

「子どもの明日 応援プロジェクト」の活動内容

主な活動としては、全国各地で実施している「『地域を見守る』社会貢献活動」や「あしながチャリティー&ウォーク」をはじめ、音楽を通じた情操教育「ふれあいコンサート」や「未来を奏でる教室」、環境意識を醸成する「海の環境工作教室」や「黄色いワッペン贈呈」などがあります。

「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを毎年開催しています。また、コンサートとあわせて開催地近郊の小・中学校にて、作曲家 三枝成彰氏による音楽授業を開催し、音楽を通じて子どもたちの情操教育のお役に立てるよう取り組んでいます。

「愛と平和のチャリティーコンサート」の開催

2009年度より開催数・地域を拡大して実施している「愛と平和のチャリティーコンサート」。2014年度は埼玉県、千葉県、岡山県、福井県、長野県の5カ所で開催しました。ご来場いただいたお客さまには本コンサートの音楽監督である三枝成彰氏による楽曲解説とソリストによる演奏をお楽しみいただきました。



チャリティー募金は被災地支援を行なっているNPOへ寄付

コンサート会場にて実施しているチャリティー募金は、5会場合計で1,418,667円となりました。このチャリティー募金は、公益社団法人日本フィランソロピー協会を通じ、子どもの健全育成や環境保全等に取り組んでいる全国のNPO等へ寄付しています。2014年度は昨年に引き続き、東日本大震災で被災した子どもたちの支援のために活動しているNPOへ寄付しました。

＜寄付の対象となったNPO＞

活動地域	寄付先
岩手県	特定非営利活動法人 ハックの家
岩手県	NPO法人 こそだてシップ
宮城県	NPO法人 にじいろクレヨン
宮城県	NPO法人 アスイク
福島県	NPO法人 あぶくまエヌエスネット
福島県	NPO法人 郡山ペップ子育てネットワーク

音楽授業「未来を奏でる教室」の開催

愛と平和のチャリティーコンサートの公演とあわせて開催地近郊の小・中学校にて、三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」を開催しました。クラシック音楽の特徴や歴史を解説しながら展開する授業は、子どもたちに音楽への興味・関心を深めてもらう内容となっています。



未来を奏でる教室 開催状況(2014年度)

開催日	学校名	学年	所在地
2014年9月11日	玉井小学校	5～6年生	埼玉県熊谷市
2014年9月19日	加良部小学校	4～6年生	千葉県成田市
2014年10月8日	富山中学校	1～3年生	岡山県岡山市
2014年10月29日	本郷小学校	4～6年生	福井県福井市
2014年11月12日	城山小学校	5～6年生	長野県長野市

なお、「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」は2014年度文化庁の後援をいただいております。

ふれあいコンサート

子どもの明日 応援プロジェクト

日頃コンサートに行く機会の少ない障がいのある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらう目的で、ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげき氏による手作りのコンサート「ふれあいコンサート」を全国各地の特別支援学校等で開催しています。

全国の特別支援学校等で開催

第1回目のコンサートは1984年に秋田療育園で開催し、2007年の新潟県の小出養護学校で100回目のコンサートを迎えました。31年目を迎えた2014年は、10月6日から10月10日にかけて山形県、秋田県、青森県の特別支援学校5校で開催しました。31年間の累計訪問学校等は136校になりました。

コンサートでは、鳥塚しげき氏を中心に「幸せなら手をたたこう」、「ドレミのうた」やアニメメドレーなどが披露されました。子どもたちも手作り楽器でリズムを取ったり、歌ったり、踊ったり、また舞台に出てきて、いろいろな動物の鳴き声をしてみたりと、どの会場でも大変盛り上がりしました。

なお、「ふれあいコンサート」は従業員の募金で運営されています。



VOICE 出演者

子どもたちの笑顔のために歌い続けます

私は音楽の力を信じています。音楽には素晴らしい力があります。悲しい時には慰めてくれ、楽しい時には心をウキウキさせてくれます。私は子どもたちを楽しませるだけではなく、音楽の持つ力で子どもたちに勇気や希望を持ってもらえるよう、この31年間コンサートを続けてきました。私のパフォーマンスに子どもたちは満面の笑みで応えてくれます。これからも子どもたちの笑顔のために歌い続けます。



歌手
鳥塚 しげき 氏

TOPIC

30周年スペシャル「ふれあいコンサート」を開催

「ふれあいコンサート」の開催30周年を記念して、2013年度に2回のスペシャルコンサートを開催しました。

2013年9月28日には、丸の内MY PLAZAホールにて、東日本大震災で県外避難を余儀なくされた親子のみなさまを中心に未就学児・小学生の親子を招待しました。

2014年1月14日には府中グリーンプラザけやきホールにて、地域の特別支援学校や障がい者福祉施設から児童・生徒のみなさま等を招待しました。

いずれのコンサートも、歌やパフォーマンスに加え、30周年スペシャルコンサートならではの、生バンドによるすばらしい演奏や歌に合わせた楽しい映像もあり、会場は大いに盛り上がりました。



海の環境工作教室

子どもの明日 応援プロジェクト

子どもたちに自然に対するやさしい思いを育んでもらうとともに、海の環境美化をアピールする目的で海の環境工作教室とシーボーンアート展を開催しています。

「海の環境工作教室」の開催

従業員や家族、地域のお客さまがボランティアで海岸清掃を行ない、清掃を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミなどの漂着物等を使ってアート作品を制作する「海の環境工作教室」を開催しています。この工作教室は、NPO日本渚の美術協会※の協力を得て、2007年にスタートしたもので、子どもたちが自然に対する思いを育む場として実施しています。2014年度は全国3ヵ所で開催し、317人が参加しました。収集したゴミ等の量は合計で3,000㍑に達しました。工作教室では“私の好きな生きもの”をテーマとして178作品が生まれました。

※NPO日本渚の美術協会は海岸漂着物を「海からの贈り物」と称し、アート創作を手段として海浜美化啓発活動を行っている特定非営利活動法人。



海の環境工作教室 開催状況(2014年度)

開催日	会場	所在地	参加人数
2014年 5月11日	九十九里浜片貝海岸	千葉県九十九里町	79人
2014年 6月 1日	磐田市竜洋海洋公園海岸	静岡県磐田市	141人
2015年 3月 8日	磯ノ浦海水浴場	和歌山県和歌山市	97人

VOICE NPO法人代表

思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えることを願っています

今、海がゴミの最終到達地になったようで「海の悲鳴」を感じます。私たちは「美しい海を次世代に引き継ぐために」海岸清掃とともに、漂着物を利用したアート創作を手法として、海の美化啓発活動をしています。この活動を通じて、海に対する優しい思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えてくれることを願っています。



NPO日本渚の美術協会
会長
本間 清 氏

第8回「シーボーンアート展」の開催と「私の好きな生きもの」コンテストの実施

シーボーンアート展は海岸の清掃活動を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミ等の漂着物を材料として制作したアート作品を展示し、海の環境美化を訴えるものです。

2014年7月27日～8月24日にかけて、第8回シーボーンアート展「渚のリゾートで お・も・て・な・し」を丸の内 MY PLAZAで開催しました。会場ではNPO日本渚の美術協会の会員が制作したシーボーンアート作品が展示されたほか、2013年9月～2014年6月に開催した海の環境工作教室で当社の従業員・家族や地域のお客さまが制作した作品の中から選ばれた作品93点を対象に、“「わたしの好きな生きもの」コンテスト”を実施しました。



2014年「私の好きな生きもの」コンテスト入賞作品

👑 グランプリ

穴山 沙紀さん(小1) 穴山 来夢さん(小3) 中山 空さん(小3)
香川県坂出市沙弥島海水浴場会場



うみからきたねこ

本人のメッセージ

グランプリでうれしかったです。海でひろったごみでつくるのがたのしかったです。(穴山 沙紀さん)
ねこを作るのはむずかしかったです。海のごみで工作を作ると海のごみもへるし、海もきれいになったのでよかったです。(穴山 来夢さん)
ぼくは「グランプリになるといいな～」と思っていたら、グランプリになったのでおどろきながらもうれしくてたまりませんでした。(中山 空さん)

日本渚の美術協会からのコメント

存在感のあるダイナミックな作品です。ゴミと化した厄介者の大きな黒い浮き球も、作者の手にかかり魂を吹き込まれたようです。とても楽しくハッピーな心を感じる作品です。

👑 準グランプリ

小野 しおりさん(小1) 静岡県沼津市大諏訪片浜海岸



はりねずみ

本人のメッセージ

背中針を1本ずつつけていくのが大変でした。しっぽは傘の持ち手がくるんとまるまった感じがちょうどよかったです。

日本渚の美術協会からのコメント

人工ゴミと自然物を上手く組み合わせてアクティブな作品に仕上がっています。傘の柄をシッポに見立てたアイデアは抜群なセンスです。今にも動き出しそうな躍動感ある作品です。

👑 準グランプリ

時田 夢夏さん(小6) 静岡県沼津市大諏訪片浜海岸



オシャレなカラフルクラゲ

家族のメッセージ

いつも身近にある海にこんなにたくさんの物が流れ着いたり捨てられたりしていることに驚かされました。無機質な物がこんなにいきいきとした物へ変わって、アトリウムでの展示もとても素敵でした。この活動を紹介して下さった社員の方に親子ともども感謝します。

日本渚の美術協会からのコメント

海岸漂着ゴミの代表格である発砲スチロール片を上手に使いカラフルなクラゲが出来ましたね。赤と白の色使いが見る人の心を和ませてくれる可愛い作品です。

👑 準グランプリ

芳野 宙流さん(小4) 千葉県山武郡九十九里町片貝海岸



ボクと母

本人のメッセージ

この作品は、海辺をきれいにして子がめが海で親と出会えるといいなと思って作りました。

日本渚の美術協会からのコメント

大きなお母さんの背中が安心感と優しさを表現しています。たくさんの漂着物を上手に組み合わせて作られています。ストーリー性のある親子の愛情表現が微笑ましさを感じさせてくれます。

👑 準グランプリ

佐藤 瞭さん(小4) 静岡県磐田市駒場竜洋海洋公園南側海岸



ペンギン

本人のメッセージ

海岸に打ち寄せられた漂着物の中にボウリングのピンを見て思いついたのが「ペンギン」でした。

日本渚の美術協会からのコメント

シンプルでコンパクトにまとめられたユニークな作品です。ペンギンさんのチョット困った表情は、遠くに見える海の汚れを嘆いているのでしょうか？作品の表情からさまざまな思いが読み取れますネ。

NPO日本渚の美術協会賞

齋藤 百花さん(小4) 千葉県山武郡九十九里町片貝海岸



にゃんにゃん せんちょう

本人のメッセージ

材料選びやアイデアを出す事が楽しかったです。帽子に花をつけて船長らしくしたり、口も貝の形を生かして工夫しました。

日本渚の美術協会からのコメント

フォーマルな襟元とセンターボタンが素敵などとてもオシャレな作品です。ゴミの中からたくさんの色彩を集めて、色使いも楽しく表情も豊かでとってもキュートな作品です。

地域安全マップづくり教室

子どもの明日 応援プロジェクト

子どもたちが登下校中に事件にあう事態を防ぐことを目的に、子どもたち自身が地域に潜む「危険な場所」を回避するための能力を身につけることのできる「地域安全マップづくり教室」を2008年から開催しています。

各地の小学校、地域等で開催

「地域安全マップづくり」は「犯罪機会論^{※1}」を応用した教育プログラムであり、犯罪が起きやすい「場所」を子どもたちが自ら見極め、危険を回避できるようにしようというものです。考案者である立正大学の小宮信夫教授らが、全国各地で教育機関や警察と連携しながら普及を進めています。

地域安全マップづくり教室は、小学校を訪問し授業の一環として開催しているほか、地域の親子を対象に開催しています(後援:「だいじょうぶ」キャンペーン^{※2}実行委員会、協力:NPO法人地域安全マップ協会)。
参加者は、講義とフィールドワーク、マップづくりを通して「危険な場所」を避けるための考え方を学びます。「危険な場所」の説明が「入りやすい」「見えにくい」という二つのキーワードでなされ、どのような場所が危険な場所であるかが子どもたちにも容易に理解できます。
また、親子で参加の場合は、子どもたちがマップづくりに取り組んでいる時間を利用して、保護者の方向けのセミナーを開催しています。

これからも、地域の安全について考え、学ぶ機会として、引き続き全国各地で開催していきます。

※1 犯罪機会論

人に犯罪の機会を与えないことによって犯罪を未然に防止しようとする考え方。

※2 「だいじょうぶ」キャンペーン

防犯・防災、交通安全をテーマに「こわいもの」から子どもたちを守るためのキャンペーンで、「だいじょうぶ」と自然に声を掛け合える社会の形成を目的としています。

(実行委員会会長＝国松孝次・元警察庁長官、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク会長)



小宮教授による講義の様子



フィールドワークの様子



マップ作りの様子



完成したマップ

VOICE 参加者

親子で防犯について楽しく学ぶことができました

最初は「地域安全マップ」と聞いて、何をするんだろうと思いながら参加しましたが、小宮先生のお話を聞いて、景色を見ることで危険な場所が見分けられるようになり、親子ともども大変勉強になりました。教室で学んだ後は、実際に、子どもと危険な場所についていろいろ話をしながら、自宅周辺の安全マップづくりに挑戦しました。マップづくり自体がとても楽しく、また、実際に作ってみることで、自宅周辺にも危険な場所がたくさんあることに改めて気づかされました。日頃は地域防犯についてあまり考える機会がありませんでしたが、この機会に親子で楽しく学ぶことができ、とてもよかったです。



高知県在住
井上 麻衣子さん・姫七ちゃん・海生くん

VOICE 講師

すべての親子に、正しい防犯知識と安全ノウハウを届けたい

世界中で日本だけが不審者に注目した防犯対策を展開しています。しかし、見た目で区別できない不審者に注目していても、犯罪被害を未然に防止することはできません。そこで、見た目で分かる危険な場所(景色)に注目する「地域安全マップづくり」が必要になるのですが、そういう視点からのマップづくりは、まだほとんど普及していません。

明治安田生命主催の「地域安全マップづくり教室」は、こうした現状を打破するものです。この教室のおかげで、これまで地域安全マップの本当の姿に触れることができなかった親子も、正しい作り方を学ぶ機会を得られるようになりました。これからも、すべての親子に、正しい防犯知識と具体的な安全対策が届くように、この教室を全国各地で開催していただきたいと望んでいます。



立正大学文学部
社会学科教授
(社会学博士)
小宮 信夫 氏

Hello! Baby 奨学金プログラム

子どもの明日 応援プロジェクト

明治安田生命は、子どもたちの健全育成を目的とした社会貢献活動を行っていますが、その一環で、とくに少子化社会対策に資する活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度(「Hello! Baby 奨学金プログラム」)」を支援しています。

助産師をめざす人を支援

少子化がいつそう進展するなか、周産期(分娩周辺期)の医療安全に向けて、国や地方自治体においてさまざまな対策が進められていますが、とりわけ産婦人科・産科医師の減少、助産師の絶対数の不足など産科医療スタッフの確保が大きな課題となっています。

こうしたなか、当社は、公益社団法人日本助産師会が実施する、助産師をめざす人のための奨学金制度の趣旨に賛同し、「Hello! Baby 奨学金プログラム」として、こども保険の契約件数に応じた金額を、毎年、当社経費のなかから寄付しています。

この奨学金を通じて、ひとりでも多くの助産師が誕生し、妊婦の方がどこにいても、より安心でより安全な出産ができる環境づくりに貢献していきたいと考えています。



VOICE 公益社団法人代表

助産師不足が深刻な現在、このプログラムは、学生の福音となっています

明治時代から産婆として地域の母子保健に貢献してきた助産師は、昭和26年の7万7千人から現在は3万人台と、大きく減少しましたが、一方で育児不安から産後うつになる人や子ども虐待の増加など、出産・子育てを取り巻く環境は、助産師を必要としています。

産科医師不足が社会問題になっていますが、助産師不足も深刻です。こうしたなか、助産師学生への修学支援制度は重要であり、貴社のプログラムは勉学に専念する助産師学生の福音となっています。



公益社団法人 日本助産師会
会長 岡本 喜代子 氏

- 「公益社団法人 日本助産師会」は、1955年(昭和30年)の創立以来、母子保健推進のため全国の助産師の連携をはかり、助産師業務の水準を維持し、その改善・向上につとめている団体です。
- 助産師の就業者数は、近年徐々に増加し、約3万6千人(2013年12月末現在)となっていますが、1分娩施設あたりの必要人員を勘案すると大幅な増加が必要とされています。

少子化対策の取組み「Hello! Baby 奨学金プログラム」が「第5回キッズデザイン賞【優秀賞】」を受賞

NPOキッズデザイン協議会主催、経済産業省後援による「第5回キッズデザイン賞(2011年)」において、当社の少子化対策に資する社会貢献取組み「助産師育成支援『Hello! Baby 奨学金プログラム』」が、“子どもたちを産み育てやすいデザイン”と認められ、「優秀賞(ソーシャルキッズサポート部門)キッズデザイン協議会 会長賞」を受賞しました。

この受賞は、「少子化対策の重要な視点として、助産師などの産科医療スタッフの確保という命題に取り組んだ意欲的な試みである。助産師をめざす学生は実習等によって費用もかかり、時間的な融通もききにくいいため、こうした奨学金制度は社会的な意義は高い。保険という本業を通じた CSR の取組みとして、出産・子育てに寄与する点を高く評価する」との観点で選考いただいたものです。

「キッズデザイン賞」とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の3つを顕彰する制度です。子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動など幅広い分野を表彰の対象としており、受賞作品には、「キッズデザインマーク」の使用が認められます。



「黄色いワッペン」の贈呈

子どもの明日 応援プロジェクト

1965年以来、新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」を贈呈しています。

新入学児童の交通安全を願って

51回目となった2015年は、全国111万人の新入学児童に「黄色いワッペン」を贈呈し、これまでに配られたワッペンは累計で約6,222万枚となりました。長く継続している事業のため、親子二代にわたって着用しましたとの声が多く聞かれるようになりました。

「黄色いワッペン」には、2015年度の交通安全スローガン〈内閣総理大臣賞(最優秀作)こども部門〉『るーるむし しん号むしは わるいむし』が印字され、子どもたちの交通安全意識を育むとともに、保護者やドライバーの方々の注意を喚起しています。また、「黄色いワッペン」は登下校中に発生した交通事故を対象とした、保険金額が最高50万円の交通事故傷害保険が付されています。

3月から4月の入学シーズンに全国各地で贈呈式が開催されました。

共同実施団体：(株)みずほフィナンシャルグループ、損害保険ジャパン日本興亜(株)、第一生命保険(株)



全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛



当社は、1997年から「全国小中学校環境教育研究会」が主催する絵画コンクールに協賛しています。

明治安田生命特別賞の贈呈

本コンクールは、“みんなでつくろう住みよい町”、“みんなで守ろう大切な自然”をテーマに、全国の小中学生から環境に関する作品を募集しています。

第18回目を迎えた2014年度は、小学校からは199校2,006作品、中学校からは171校2,038作品の計4,044作品の応募がありました。

2014年12月13日には、エコプロダクツ展会場となった東京ビックサイトにて表彰式を行ない、文部科学大臣賞、環境大臣賞のほか明治安田生命特別賞等を「小学校の部」および「中学校の部」の各1作品に贈りました。

なお、エコプロダクツ展開催中、会場には入賞作品が展示されました。



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(小学校の部)



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(中学校の部)

地域社会への貢献をめざして

明治安田生命は、地域に根ざした良き企業市民として地域とのパートナーシップを大切にし、地域とともに発展することを願っています。そして会社はもちろん地域の住民の一人である従業員もボランティア活動を通じて地域の活動に参画しています。

小学生向けサッカー教室



JリーグおよびJクラブの全面協力を得ながら全国各地で小学生向けサッカー教室を実施していきます。

「地域を見守る」社会貢献活動



全国のMYライフプランアドバイザー(営業職員)が日々のお客さま訪問活動中に、子ども・ご高齢者等をはじめとする地域の方々の危険や異変を察知した場合に、警察や自治体等に連絡を行なう等の活動を展開しています。

あしながチャリティー&ウォーク



当社役職員が親をなくした子どもたちの「あしながさん」となって、ウォーキングやチャリティー募金を通じて、子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を行なっています。

全国各地の地域貢献活動



全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開しています。

地域支え合い助成制度



市民が地域で支え合う仕組みづくりを担う団体を支援しています。

明治安田生命 関西を考える会



関西の歴史・文化に関する冊子を毎年刊行しています。

小学生向けサッカー教室

明治安田生命はJリーグの「地域に根ざしたスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに共感し、タイトルパートナー契約を締結しました。私たちは「全員がサポーター」となってJリーグおよび地域のJクラブ等を応援することで、地域社会の活性化や子どもの健全育成に貢献していきます。

この一環として、全国各地で小学生向けサッカー教室を開催しております。2014年度は、JリーグおよびJクラブの全面協力を得て、全国各地で83回開催し、約12,000人のお子さまや保護者の方々に参加いただきました。今年度も引き続き開催してまいります。



「地域を見守る」社会貢献活動

地域の方々が安心して暮らせる地域・社会環境づくりに貢献したい。

その思いから当社では、2014年9月から、子ども・ご高齢者等をはじめとする「地域」に暮らす方々を全国のMYライフプランアドバイザー(営業職員。以下、アドバイザー)が見守る、『地域を見守る』社会貢献活動を明治安田生命労働組合と共同で実施しています。

地域の笑顔を守りたいから

子どもたちが登下校中に事件にあう事態を防ぐために、登下校の時間帯に地域で営業活動をしている当社として何かできることはないだろうか。その思いから、当社では2006年6月から「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動に取り組んできました。

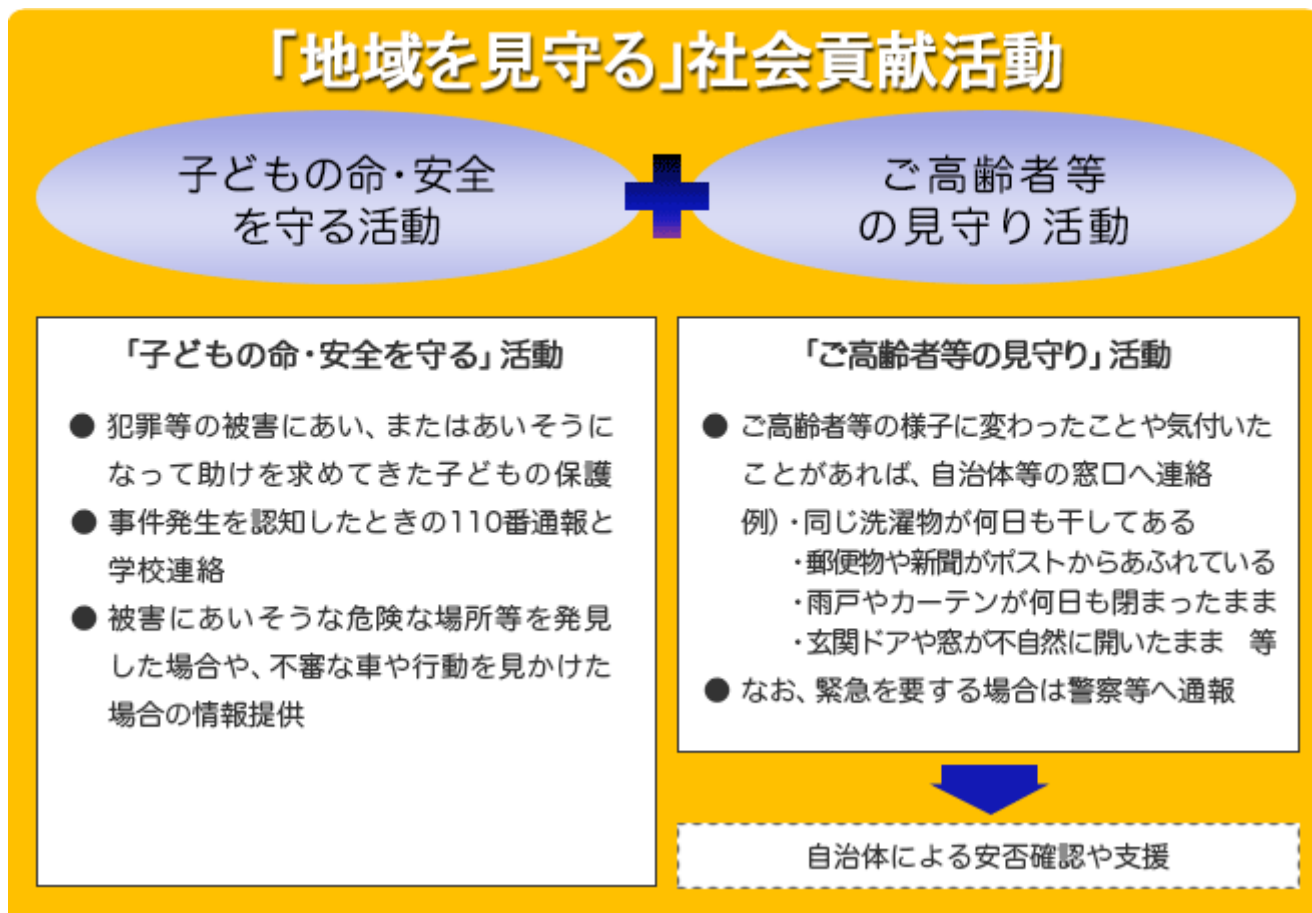
一方、近年、超高齢社会や核家族化の進展等に伴うひとり暮らしのご高齢者等の増加をふまえ、地方自治体が地域に密着した事業者と見守りネットワークを組成する等、地域全体でご高齢者等を見守る取組みが推進されてきています。

このような社会情勢をふまえ、当社では、これまでの「子どもの命・安全を守る」活動に「ご高齢者等の見守り」活動を加え、2014年9月26日から『地域を見守る』社会貢献活動として実施しています。

「ご高齢者等の見守り」活動では、アドバイザーが日々のお客さま訪問活動のなかで、ご高齢者等の様子に変わったことや気付いたことがあれば、地方自治体の窓口等に連絡し、不測の事態を未然に防ぎ、地域の安心・安全を見守ります。この活動は、警察庁のご協力のもと、また、地方自治体と協力協定書の締結や協力事業者登録等を通じた連携を強化し、地域に密着した活動として推進しています。

「地域を見守る」社会貢献活動の取組内容

取組内容の概要図



この活動では、アドバイザーが地域で営業活動するときに、活動プレートセットしたネームタッグを携行しています。これにより、防犯・見守り活動の意識を高めるとともに、犯罪行為へのけん制効果も期待されます。活動プレートには、地域の警察署・小学校・自治体等の連絡先を記載し、不測の事態にはただちに情報を伝達・連携できる態勢をとっています。



目印はこの活動プレートです



またこの活動は、自治体等と連携して取り組んでいることから、その協力態勢を明確にするため、自治体との間で「協定書」の締結や自治体が運営する見守りネットワークへの協力事業者登録を進めています。手続きが完了した自治体は以下のとおりです。

(2015年7月現在、掲載を承諾いただいた自治体のみ。なお、協定書締結等がない自治体においても、自治体と連携のうえ、活動を推進しています)

【都道府県】

栃木県	群馬県	石川県
-----	-----	-----

【市区町村】

函館市	旭川市	室蘭市	網走市	留萌市	苫小牧市	芦別市	深川市
北広島市	青森市	弘前市	十和田市	盛岡市	遠野市	釜石市	奥州市
大崎市	会津若松市	伊達市	さいたま市	所沢市	狭山市	深谷市	北本市
坂戸市	鶴ヶ島市	ふじみ野市	杉戸町	千葉市	船橋市	館山市	習志野市
市原市	浦安市	新宿区	江東区	品川区	大田区	中野区	杉並区
北区	練馬区	足立区	立川市	三鷹市	昭島市	町田市	国立市
清瀬市	相模原市	平塚市	三浦市	大和市	座間市	見附市	富山市
滑川市	福井市	越前市	多治見市	各務原市	浜松市	熱海市	三島市
掛川市	藤枝市	下田市	名古屋市	豊橋市	岡崎市	半田市	豊川市
豊田市	犬山市	江南市	新城市	大津市	長浜市	福知山市	舞鶴市
亀岡市	岸和田市	吹田市	八尾市	寝屋川市	大東市	東大阪市	伊丹市
宝塚市	篠山市	岡山市	総社市	海田町	下関市	宇部市	山口市
岩国市	周南市	徳島市	阿南市	観音寺市	新居浜市	佐賀市	諫早市

あしながチャリティー&ウォーク

あしなが育英会のご協力のもと、全社共通の社会貢献活動として「あしながチャリティー&ウォーク」を全国各地で開催しています。当社従業員等が参加するウォーキングとチャリティー募金を通じて親をなくした子どもたちの進学と心のケア支援を行なっています。

「あしながチャリティー&ウォーク」に約3万8千人の従業員等が参加

4年目となる2014年度は9～12月に、当社が独自に主催する「あしながMYウォーク」およびあしなが育英会（あしながPウォーク10実行委員会）が開催する「あしながPウォーク10」への参加を通じて、全国64カ所で昨年を上回る約1万5千人がウォーキングとチャリティー募金を行ないました。また、当日ウォーキングに参加できなかったチャリティー募金参加者を含め、総勢約3万8千人の役員・従業員等※がこの活動に参加し、“親をなくした子どもたちに進学の夢と心のケアを”を合言葉に遺児支援に取り組みました。



※この活動には、東京海上日動火災保険株式会社のみなさまをはじめ、活動趣旨に賛同いただいた社外の方にも参加いただきました。

全国各地でチャリティーウォークを実施





札幌



仙台



福井



水戸



さいたま



名古屋



大阪



京都



広島



高松



宮崎



那覇

チャリティー募金の寄付を通じた被災地支援

あしなが育英会への寄付

2014年度の活動を受けて、2015年2月には、東日本大震災で親をなくした子どもたちの心のケア支援(東北レインボーハウスの建設・運営)等を目的に、あしなが育英会にチャリティー募金1,319万664円を寄付しました。



被災地3県の遺児支援基金等への寄付

あしなが育英会への寄付に加え、岩手県、宮城県、福島県が東日本大震災で親をなくした子どもたちが社会人として独り立ちするまで、息の長い支援を行なうため設置した基金等[※]へ、3県合計で360万5,768円を寄付しました。

※いわての学び希望基金(岩手県)、東日本大震災みやぎこども育英募金(宮城県)、東日本大震災ふくしまこども寄附金(福島県)

全国各地の地域貢献活動

全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開するほか、東日本大震災被災地支援に向けた取組みや人道上的災害救援、復興支援のための寄付を行なっています。

従業員参加による地域・社会貢献活動

当社は「行動規範」の一つに“地域社会への貢献と環境への配慮”を掲げ、所属ごとに、従業員が積極的に運営、参加する社会貢献活動を推進しています。

内容は、地域清掃、献血運動、使用済み切手等の収集活動、高齢者施設や児童養護施設などへの訪問・寄贈、障がいのある方への支援、マラソンボランティア、環境保全活動等々、地域に根ざしたさまざまな活動に取り組んでいます。



ボランティア活動の奨励

こうした所属の自主的な取組みをより活性化し、従業員の地域・社会貢献活動意識の向上を図るため、年間を通じて、優れた活動を行ない社会的な信頼を高めた所属を表彰する社内表彰制度である「ボランティア表彰」を設けています。社外専門家を加えた選考メンバーが、右の選考基準をもとに総合的に評価し、2014年度ボランティア表彰受賞所属を決定しました。

「ボランティア表彰」の選考基準

- 継続性
- 地域社会に根ざした活動(自治体やNPOとの連携等)
- 活動内容の独自性
- 多くの所属員の参加・協力
- その他(地域からの評価等)

「2014年度ボランティア表彰」受賞所属の活動

ホタル観賞会やグリーンカーテン生育など自然に触れ合う活動を実施 <大賞 金沢支社>

金沢支社では石川県の豊かな自然を守る目的で地域の親子など約150名を招いたホタル観賞会を実施しました。参加者はホタルの生態や鑑賞マナーを学んだ後ホタルを鑑賞しました。参加した子どもたちを対象にホタルの絵コンクールを開催、入賞作品を支社ビルに展示しました。また、支社や営業所においてあさがおやゴーやなどを育てて地域の福祉施設や取引先企業などにグリーンカーテンとして設置しました。この活動を通じて節電やCO₂削減意識を高めることができました。このほか支社・全営業所では地域の福祉施設や高齢者施設、児童養護施設などで、夏祭りボランティアや介助ボランティアなどを通じ地域との交流を深めました。なお、金沢支社は2012年度から3年連続でボランティア表彰に入賞したことにより、“ボランティアマスター”と認定されました。



ホタル観賞会等さまざまなふれあいの場を通じて地域社会に貢献

2014年度は、これまで実施してきた社会貢献活動の取組みを継続し、各営業所の提案や意見を取り入れ、多くの所属員が参加することを心がけてきました。「ホタル観賞会」「ホタルの絵コンクール」は2011年より開催、福祉施設や取引企業へのグリーンカーテン設置、また福祉施設でのイベントボランティア参加や古タオルの寄贈などの支援活動は2012年より毎年行なっています。毎年継続して取組むことで所属員の社会貢献活動への意識が高まっただけでなく、お客さまや地域の方からは取組みへの励ましを、また関係団体や福祉施設の方からは期待や感謝のお言葉をいただくことができました。今後もさまざまなふれあいの場を持ち、地域社会に貢献できるよう所属員とともに取組んでいきます。



金沢支社長
睦谷 泰秀

支社と全営業所が独自の活動を企画・実施 <優秀賞 千代田支社>

千代田支社では、支社と全営業所が児童養護施設や特別養護老人ホーム、患者家族滞在施設などにおいて地域性等を考えて独自にボランティア活動を展開しました。具体的な活動としては、特別養護老人ホームを毎月2回継続して訪問し、高齢者の話し相手になったり一緒に歌を歌って交流を深めました。また、児童養護施設へ古本等を回収した売上で自転車を寄贈したり、施設の中学生を対象に社会体験の一環として本社見学をしていただきました。なお、千代田支社は2012年度から3年連続でボランティア表彰に入賞したことにより、“ボランティアマスター”と認定されました。



福井の子どもたちの郷土愛を育てる“学ぼうシリーズ”を実施 <優秀賞 福井支社>

福井の産業、伝統工芸、歴史・文化をテーマに子どもたちが体験学習を通じて、楽しみながら郷土への愛情を育む活動。年間を通じて3回の“学ぼうシリーズ”を実施しました。

●1回目・・・「福井の産業を学ぼう」(8月)

世界最高水準の技術をもつ福井のメガネ産業を学びました。体験活動では、親子で写真が飛び出る3Dメガネを作りました。



●2回目・・・「福井の伝統工芸を学ぼう」(12月)

越前和紙の歴史を学びました。体験活動では、参加した子どもたちが障がいのある方とペアとなり紙すき体験。和紙でしおりを作成しました。



●3回目・・・「福井の歴史・文化」(1月)

永平寺の見学や歴史を学びました。体験活動では、座禅体験や「冬の燈籠まつり」に飾る燈籠を作りました。



このほか、支社・全営業所で、地域の清掃活動を実施しています。

地域に根ざしたさまざまな活動を展開 ＜優秀賞 山口支社＞

営業所のバス停で入居者を介抱したことをきっかけに高齢者施設との交流を始め、毎月訪問する活動を続けています。高齢者の話し相手や手作りのフォトフレームに交流の様子を撮影した写真を入れてプレゼントしたほか、施設の清掃活動も実施しています。

11月に開催の下関海響マラソンでは、選手受付や給水のボランティア活動に51名が参加しました。2010年から継続して参加しています。地域のJ3所属のサッカーチームの試合観戦後、サポーターと一緒に競技場内の看板や旗、人工芝の撤収作業を行ないました。



児童養護施設を継続訪問、子どもたちとの“絆を深める”交流を実現 ＜優秀賞 融資部＞

2012年度から児童養護施設を継続訪問しています。毎月の誕生日会に加え、花火大会、ハロウィンパーティー、かるた大会などの季節のイベントを企画・開催しました。この活動には所属の全員が参加しました。1月のマラソン大会後に子どもたちと一緒にゴミ拾いボランティアを実施したことが子どもたちにとって貴重な経験になったと感謝されました。クリスマス会では子どもたちから感謝状をもらうなど、“絆を深める”交流を実現しました。なお、融資部は2012年度から3年連続でボランティア表彰に入賞したことにより、“ボランティアマスター”と認定されました。



被災地支援をはじめとしたボランティア活動の企画・実施 <優秀賞 営業企画部>

高齢者施設のお年寄りや地域の児童館の子どもたちを対象にクリスマスリース教室を開催し、できあがったリースを福島県相馬市の「がんこや仮設住宅」に持参してクリスマスパーティーを実施しました。児童館の子どもたちと実施した七夕やハロウィンパーティーでは、部全員で会場を装飾するかざり等を作成しました。また、高齢者施設を定期的に訪問し、枕カバーやシーツ交換、ゴミ袋作成等のボランティア活動を行ないました。



その他にも各地でさまざまな活動を実施しています。

特別養護老人ホームのボランティア活動を支社全体で取り組む <池袋支社>

毎週水曜日に特別養護老人ホームを訪問し、夕食の食器片付けやテーブルふき、床掃除等を行なっています。2014年度には50回のべ200名が参加しました。支社全員で取り組む3年目の活動で、施設からは継続的な活動に感謝状をいただきました。



高齢者施設、障がい者施設、近隣の保育園の支援活動を継続実施 <事務サービス企画部>

毎月定期的に昼休み・夕方等の時間帯を利用して老人ホーム入居者ベッドのシーツ交換、デイサービス補助、浴室清掃などを実施しました。部全員が交代で施設を訪問しています。また、施設から介護福祉士の方を招いて介護セミナーを開催しました。新東陽町ビルで、障がい者の自立支援のための販売活動に継続的に協力しているほか、この施設で開催した子ども向けコンサートに参加してダンスを披露するなど交流を深めました。5年連続で近隣の保育園へ毎年50枚以上のタオルを寄贈しています。今年度からは新たに保育園の1、2歳クラスの子どもたちに、休日に自宅近隣等で集めたどんぐりをプレゼントしたりバギー置場の清掃、タイヤの空気入れなどを行ないました。



スポーツ教室の開催

当社の運動部(野球部、テニス部、ボート部、アメリカンフットボール部)では、地域貢献や子どもの健全育成を目的に各地でスポーツ活動を行なっています。

<野球部>

東京や新潟で小学生を対象とした野球教室を開催しました。「投げる・打つ・守る・走る」といった基本的動作を指導、子供たちに野球を楽しんでもらいました。



野球教室

<テニス部>

聴覚に障がいのある方たちのためのテニス教室を2008年度から毎年開催しています。3月には「関東聴覚障害者テニス協会」から35人が参加し、手話を介したレッスンを行ないました。



テニス教室

<ボート部>

江戸川区ボート協会が、ボート教室を開催するにあたり、ボランティアの一環として開催のお手伝いをしました。小学生や地区の大人の方々と一緒にボートに乗り、今後、市民レガッタ等に参加される予定の方々には技術指導を、初心者の方にはボートの楽しさを広めました。



ボート教室

<アメリカンフットボール部>

アメリカンフットボール部はピンクリボン運動に賛同し、ピンクリボン月間である10月にこの運動に積極的に取り組んでいます。主な活動は、試合会場のお客さまに乳がんに関するパンフレットの配布や、受付でのパネル掲示を通じての意識啓蒙活動です。また、オレンジリボン運動に賛同し、競技中に着用するヘルメットに全員がオレンジシールを貼っています。また、小中学生を対象としたフラッグフットボール教室などを開催しています。



フラッグフットボール教室

※活動内容および所属名等は2014年度のものを掲載しています

東日本大震災被災地支援に向けた取組み

「ぼんた山元気楽校」ボランティア

NPO法人 あぶくまエヌエスネットは、放射能の影響により外遊びのできない子どもを対象に、福島県内で放射線量の低い山間地で「ぼんた山元気楽校」を開催しています。当社からは2013年度の8回に続き、2014年度も9回参加しました。ボランティア参加者は、子どもたちが安全かつ快適に活動できるようサポートしながら、子どもたちとボール遊び、木工、ウォールクライミング、小川遊び、食事作り等を行ないながら、集団生活のお手伝いをしました。



「花未来」ボランティア

NPO法人 地域の芽生え21は瓦礫置場となっていた仙台空港滑走路の隣接広場にて、大輪のひまわりで「Thank you !」の文字を大空に向けて発信しようという活動を行なっています。NPO法人や地元の方々、ボランティア参加者が一緒になって「東日本大震災の復興支援に携わった国内外のみなさんに感謝のメッセージを伝えたい」という想いがこめられています。当社からは2013年度は8回参加し、整地活動、ひまわりの種まきと苗植え、そして雑草刈り等を行なったほか、石巻市の大川小学校での花壇作り等を行ないました。2014年度は、石巻市の大川小学校や東松島市の浜市小学校での花壇作り等に2回参加しました。



福島県復興支援 福島物産展の開催

2015年2月4日、丸の内MY PLAZAアトリウムにおいて労使共同にて福島県復興支援として福島物産展を開催しました。当日は、日本橋ふくしま館の協力をいただき、県内の農産品、農水産加工物、お菓子等がところ狭しと陳列・販売されたほか福島県復興シンボルキャラクター“キビタン”や「福が満開ふくしま隊」の歌と踊りのステージ等のイベントも実施されました。多くの人々が会場を訪れ売上高は100万円を超えるなど福島県復興への関心の高さがうかがえました。



人道上の災害救援、復興支援のための寄付

2014年には京都府、兵庫県、広島市、徳島県で発生した大雨災害、台風災害に対し義援金を寄付しました。



地域支え合い助成制度

全国各地の12市民団体に助成

高齢化の進展に伴い、地域市民が主体的に行なう福祉活動の必要性はとみに増しています。とりわけ市民が地域で支え合う仕組みづくりとその拡充が期待されています。

当社では2001年度より、全国で活動している市民参加型の配食サービス団体に対して、毎年、全国老人給食協力会の審査に基づき、資金助成を行なっています。2013年度からは配食サービスに加え、高齢者の居場所づくりや見守り活動等も助成対象に加え、地域のコミュニティ形成を支援しています。

2014年度は助成先に全国各地の12の市民団体を決定、助成を行ないました。過去14年間で142団体へ助成しました。



明治安田生命 関西を考える会

1976年以来、地域貢献活動の一環として「ふるさと関西を考えるキャンペーン」を行ない、毎年、関西の歴史・文化に関する冊子を刊行してきました。

活動39年目を迎える2014年は、「関西から おもてなし」と題して冊子を刊行いたしました。「表裏(おもてうら)なし」「以(もっ)て為(な)す」などを語源とし、2020年東京オリンピック招致活動時に話題となった言葉、「おもてなし」をテーマに編集しております。冊子では、関西の文化的・地域的側面を背景に、有識者や各地の観光ボランティア、自治体からいただいたおもてなしに関するさまざまな事例やコメントをご紹介します。



財団の活動

(公財)明治安田厚生事業団の活動



国民の健康増進事業を推進することにより学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。

(公財)明治安田こころの健康財団の活動



子どもの健全な育成とそのご家族に対する相談、精神保健分野における専門家を対象とした研修およびそれらの領域の研究への助成を行なっています。

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動



音楽分野および地域の伝統文化分野における人材の育成を支援しています。

(公財)明治安田厚生事業団の活動

1962年6月に設立された当事業団は、変遷する健康課題を先駆的に捉えて調査研究を行なうとともに、その知見の普及啓発を行なってきました。設立50周年を迎えた2012年には内閣府から公益財団法人の認定を受け、国民の健康増進に繋がる活動をさらに積極的に推進しています。

現在では、体力医学研究事業、ウェルネス事業、健康調査事業の3部門が連携し、三位一体となって学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。近年は、我が国の大きな健康問題になりつつある介護問題や認知機能の研究にも着手しています。

体力医学研究事業(体力医学研究所)

国民の健康にまつわる諸問題の解決に向けた調査研究を実施し、その成果が広く一般に役立つよう普及活動にも努めています。近年では「運動とメンタルヘルス」をメインテーマに、運動と脳機能の関係、運動を活用した介護ストレス緩和のための研究等に取り組んでいます。

加えて、健康科学分野に関わる若手研究者の活動支援を目的に、研究助成を実施しています。

ウェルネス事業(ウェルネス開発室)

体力医学研究事業、健康調査事業の成果を活かして、身近な健康づくりをサポートするプログラムを開発・提供しています。また、自治体や企業、団体等への講演会や講習会等を通じて、科学的な根拠に基づいた健康づくりを提案し、社会に貢献できる健康づくり普及啓発活動を行なっています。

健康調査事業(新宿健診センター)

1975年の開設以来、多数の方々に健診をご受診いただくとともに、体力医学研究事業、ウェルネス事業と連携し、健診データを活用した調査研究およびその知見の普及啓発を行なっています。また、受診者を中心に健康相談を実施し、疾病の予防・改善を通じて国民の健康増進に努めています。

(公財)明治安田厚生事業団の活動



(公財)明治安田こころの健康財団の活動

1965年3月に設立された当財団は、発達に心配のある子どもや心理面に不安を持つ子どもの健全な育成支援を通じて社会に貢献することを趣旨とし、子どもとご家族への相談、精神保健分野の専門家育成のための研修講座の開催および研究助成を中心に事業を展開しています。相談事業では、年間延べ2,000件の相談を行ない、研修事業では延べ2,500人の方が受講されています。

研究助成

子ども、家族、家庭および高齢者の問題に関する精神保健・福祉領域の基礎的、臨床的な研究に対し助成を行っています。その研究成果を「研究助成論文集」として刊行しています。

研修講座(集中・夜間)

精神医学・教育・保育・心理・相談・医療・保健・行政・司法などの精神保健分野で活躍する専門家、ならびにこの職種をめざす大学院生・大学生などを対象として、広く社会のニーズと受講者の要望に応えるべく、先進的・独創的な研修講座を開講しています。

こども療育相談センター

自閉症スペクトラムの特徴のあるお子さんや発達障害のあるお子さんにご家族に対し、より専門性の高い心理・教育的支援を提供しています。また、地域における発達・生活支援の充実に向けて関係機関との連携および講師派遣も行なっています。

すこやか育成相談室

成長過程で不安や葛藤が生じ、集団生活の中で困難やつらさを感じるお子さんに対し、健やかな成長を支えることを目的として、お子さんやご家族との心理相談を行なうとともに、関係機関との連携および講師派遣も行なっています。

出版・啓発活動

知的障がいや自閉症の人たちのための支援ツールや、教育・指導方法の実践的な取組みを紹介しています。



コミュニケーション支援ボード



見てわかる社会生活ガイド集



自閉症課題百選

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動

1991年6月に設立された当財団は、生活の質的向上とわが国文化の発展に寄与することを目的に、音楽における人材育成および地域の伝統文化の保存維持ならびに後継者育成に対する助成等を行なっています。

クラシック音楽分野での助成

若手クラシック音楽家の海外留学を支援しています。2014年度には新たに6人が公募で選ばれ、これまでに133人が「海外音楽研修生費用助成制度」を活用して欧米に留学をしました。現在では、このなかから第一線で活躍している多数の音楽家を輩出しています。

また、音楽コンクール開催への助成として、「第83回日本音楽コンクール」作曲部門最優秀者への賞の贈呈を実施しました。

地域の伝統文化分野に関する助成

民俗芸能および民俗技術等、地域の伝統文化の継承活動、特に後継者育成に必要な諸活動を支援しています。

2014年度には新たに、徳島県の「鳴門大風保存会」等44件の助成を行ない、これまでに1,077件の伝統文化へ助成を行なっています。

本助成を契機に再び活発な活動を開始した伝統文化もあります。



環境問題への取組み

環境問題、特に地球温暖化対策への取組みは、企業の社会的責任と捉え、環境に与える負荷をできる限り小さくするとともに、社内の環境意識向上に取り組んでいます。お客さまとともに安心して豊かに暮らせる「社会」や「環境」を育み、守っていけるよう積極的に環境保全に取り組んでいます。

全社的な省エネルギー対策の推進

社内では、空調運転(温度設定・運転時間)に関する目安をはじめ、エネルギー使用機器に関する基本推進事項(昼休み・不在時の消灯・減灯、近隣フロアへの階段移動等)を定め、徹底を図るとともに、その促進のための諸対策(社内報・イントラネットを活用した従業員の省エネルギーに対する意識・行動の啓発、節電啓発ステッカーの配付、クールビズの実施等)を実施しています。

全ビルの総エネルギー使用量の状況(「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づき算出)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
エネルギー使用量 (原油換算kl)	80,665	70,202	68,335	64,024
電力使用量(万kWh)	28,846	24,866	24,143	22,446
CO ₂ 排出量(t-CO ₂) ^(※)	140,623	115,921	130,766	136,742

(※)「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」の「算定・報告・公表制度」における排出係数を使用(電力使用によるCO₂排出量については、電気事業者別排出係数で算出)。

環境に配慮したオフィスビルの取組み

全国にある当社所有のビル11棟の屋上、計7,007平方メートルを緑化しています。屋上緑化は、ヒートアイランド現象を緩和するとともに、断熱効果によってビルの空調に使うエネルギーを減らすことができます。

TOPIC

全国の自社ビル500棟超にビルエネルギー管理システム(BEMS)を導入

2013年度より、ピーク電力抑制および省エネルギー推進への着実な対応を図るため、全国の自社ビル約500棟超を対象に、順次、ビルエネルギー管理システム(以下、「BEMS」という)を導入しています。2015年3月末時点で、対象ビルのBEMS設置工事が完了しており、2015年度からは自社ビルのエネルギー管理体制の構築・運営をめざしています。

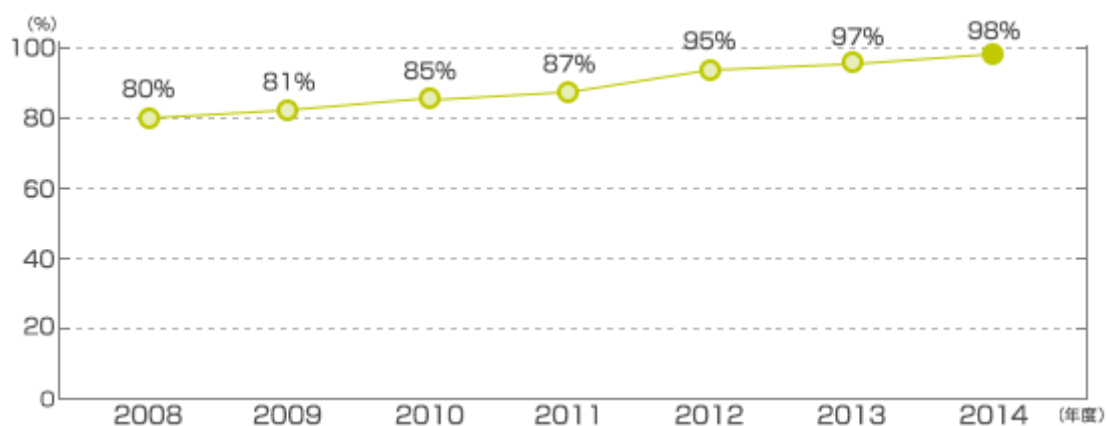
※ ビルエネルギー管理システム(BEMS)について

建物内で使用する電力使用量等を計測蓄積(「見える化」)することで、電力使用の効率化を図るエネルギー管理システムです。また、空調・照明設備等の自動制御やピーク電力の抑制を図ることが可能となり、電力需給ひっ迫時においては、事前設定した節電パターンを実行することで電力使用を自動的に抑制します。なお、BEMSとはBuilding Energy Management Systemの略称です。

社用車へのエコカー(低公害車)の導入

社用車を順次、エコカー(低公害車)に切り替えています。2014年度は社用車をさらに効率化するとともに電気自動車・ハイブリッド車への一部入れ替えを行ない、エコカー(低公害車)の合計は99台と車両総数の98%を占めています。

低公害車の導入率



廃棄物の分別・リサイクル

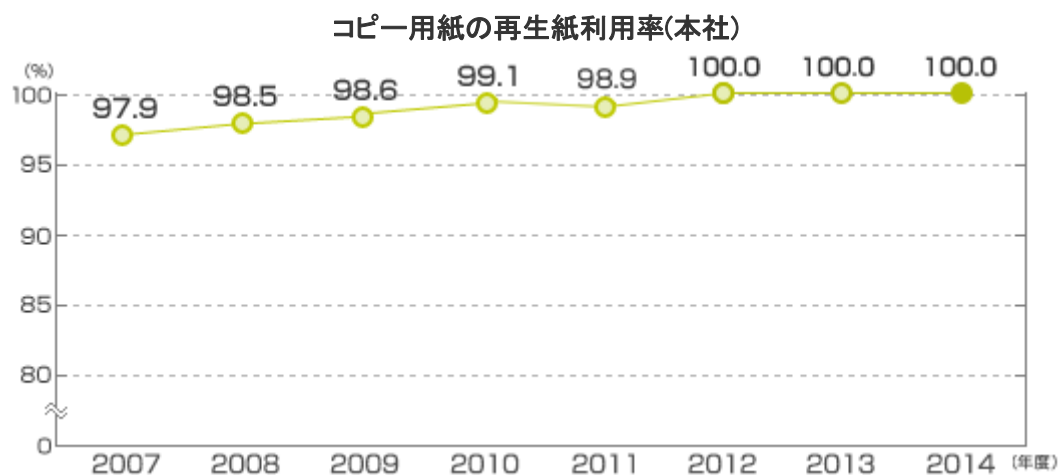


リサイクルボックス

本社がある明治安田生命ビルの各階に専用リサイクルボックスを設置するなど、廃棄物の分別回収やリサイクルに積極的に取り組んでおり、2014年度のリサイクル率は89.6%となっています。

OA用紙使用量の削減

本社では、社内横断的な文書共有と情報交換のための「電子文書管理システム(e-ファイリング)」、ならびに会議時のプロジェクター使用によるペーパーレス化の推進、両面コピーや縮小印刷の徹底などの取り組みを行なっています。また、各所属のコピー用紙削減遂行状況を適宜ニュース化し、イントラネットで開示することにより、意識の向上と取り組みの促進を図っています。



印刷物の環境配慮対応

お客さま向け各種資料・報告書など各種印刷物では、省資源の観点から紙の原材料に配慮し、インク、製版など、印刷工程についても環境に配慮した取組みを行なっています。具体的には製版フィルムを使用しない印刷方式の選択、生分解性に優れた植物油インキ使用等を推進しています。

紙資源の使用削減による省資源化推進を目的の一つとして、2011年10月から、当社の主力生命保険商品である「ライフアカウント L.A.」において、約款部分のCD-ROM化を実施してきました。また、「ライフアカウント L.A.」をさらに進化させ、2014年6月に発売した「ベストスタイル」では、約款部分をWEB化し、省資源化等の取組みをいっそう推進しています。



ご契約のしおり 定款・約款
ベストスタイル



MY Web約款

環境配慮型事務用品の購入

本社、支社および営業所等で使用する事務用品については、エコマーク商品、グリーン購入ネットワーク(GNP)掲載商品、グリーン購入法適合商品などの環境配慮型商品を優先的に購入できるシステムを構築しており、2014年度の環境配慮型商品購入率は、金額ベースで82.1%と2010年度のシステム導入後から継続して高い水準を保っています。

今後も同システムの活用等を通じて、全社を挙げて、事務用品での環境配慮型商品の購入を進めていきます。

環境に対する意識の向上

7月～9月を全社統一の「節電強化月間」として運営しました。室内温度の調整(28℃)等の全社的な推進事項を定めて通知するとともに、従業員の環境に対する意識と行動の啓発に向け、2014年度も、社内イントラネットを活用した「節電行動チェック」の実施や本社ビル勤務者にはパソコン用の「節電推進シール」、全国の支社・営業所等には執務室内貼付用の「節電推進ステッカー」を作成・提供しました。



本社ビル勤務者用「節電推進シール」



支社・営業所等の執務室内用「節電推進ステッカー」

環境に配慮した社会貢献活動

子どもたちの環境への意識を高め、環境保全にも貢献するような社会貢献活動を推進しています。例えば、小中学校の環境教育に貢献する「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」に協賛しています。またNPO日本渚の美術協会とともに海岸清掃を行ない、拾った貝殻やガラス、海藻などを用いた「海の環境工作教室」を開催しています。

また、各地の支社・営業所でも、地域の美化や自然環境保全を目的とした清掃活動・植樹活動、循環型社会形成を目的としたペットボトルキャップやプルタブの回収、その他古本や使用済み切手の回収などのリサイクル活動など、さまざまな環境保護・生物多様性保全に向けた活動を行なっています。

関連情報

- ▶ 全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛 P93
- ▶ 海の環境工作教室 P83
- ▶ 地域社会への貢献をめざして P94